



特 別
76
5447



遠山
1903

76
5447

序

下は其の法眼ハ
理と好むく志ハ
多岐古を

綴ニ一隱者之馬席
利根と

結分ハ今其碩
自笑を

曲色哥友乃三味
線と野を

粹と不粹とをく
おはわす

て源淵ホのそく
うぶの

志はくをくすん
もを笑

法法の練外を
ては益を

飽貝凡斤思ハ
あもあ



うらうらと記に玉ききとるに
うらたうらと東西五廊の
うられ女の衣かおのり
ゆらゆらつとよ君のよ
かおあらんも七曜は後の
ふらふらあきとあきらまは
うらうらと記に玉ききとるに
うらたうらと東西五廊の
うられ女の衣かおのり
ゆらゆらつとよ君のよ
かおあらんも七曜は後の
ふらふらあきとあきらまは

尾城下 世志



雙玉

采花

一瞬の
欽崇堂

お小体

か速ひの

月夜に空が灯籠

神燈堂

お子定まる

高言

接びハ

上うへぶぶののままらら

洞あな樋ひ

ああとと物ものよよままららややままららもも覚さめめ

ののややせせててままままとと茶ちや研けん坂さか

壁かべ摸もよよ口くちののぬぬいい

五ご士し又また京きやうのの

大だい本ほん戸と

浮うき名なハ

ううせせとと志まこしとと一いつ為なりああでで

身み法はふがが任にん者しやのの

ままままたたれれももななげげ

為小治女席名を

一いちええんんトとヤや

みみききうう 日にち初はつ夜や

ああまま 日にち大だい夜や

おおげげ さんさんごご

大だいききーー さんさんごご

ああまま さんさんごご

ららいいととヤや

おおつつとときき かせかせ

おおみみりり かせかせまま

おおああまま かせかせしし

かかああまま かせかせのの

おおききよよ かせかせんん

おおききんん かせかせんん

おおききんん かせかせんん

おおりりんん かせかせんん

ううままトとヤや

おおててふふ かいかいほほ

おおとといい かいかいささ

くくんん かいかいささ

ああまま かいかいささ

ささんん かいかいささ

さんさん かいかいささ

大だいいい かいかいささ

ああまま かいかいささ

ささんん かいかいささ

さんさん かいかいささ

大だいいい かいかいささ

ああまま かいかいささ

ささんん かいかいささ

さんさん かいかいささ

大坂や

志げのぬ
いすの
小のそ
梅えん

きくの
まのの
くのの
ふきの
小の川

おあそ
おきよ
おてよ
おあけ

おあそ
おあそ
おあそ
おあそ

大のや

志げの
まのの
あちよ
おてよ

おあそ
おあそ
おあそ
おあそ

おあそ
おあそ
おあそ
おあそ

おあそ
おあそ
おあそ
おあそ

みく

おまき
おまき
おまき
おまき

おまき
おまき
おまき
おまき

おまき
おまき
おまき
おまき

おまき
おまき
おまき
おまき

おまき
おまき
おまき
おまき

おまき

おまき
おまき
おまき
おまき

おまき
おまき
おまき
おまき

おまき
おまき
おまき
おまき

おまき
おまき
おまき
おまき

おまき
おまき
おまき
おまき

大船屋 舟師 舟師 舟師
橋屋 舟師 舟師 舟師
合意屋 舟師 舟師 舟師

茶屋、出舟、舟師、武拾七郎
女房合 武百余人

後士見京舟師名を

みくらや

あふや

小きん ちん
きぬ川 ちん

とやこ ちん
いくよ ちん
梅くえ

大さや

いつや

このり ちん
あつま ちん

おつら ちん
いろち ちん

大はや

くまや

く川の ちん
ちん

おん ちん
あさあ ちん
清つま ちん

さげや

あまや

まのよ ちん
まのよ ちん

あま ちん
あま ちん

のりや

あまや

とりの ちん
くの ちん

あま ちん
あま ちん

あまや

あまや

まのよ ちん
まのよ ちん

あま ちん
あま ちん

とりの ちん
小きん ちん

あま ちん
あま ちん

あまや

あまや

ちん ちん
ちん ちん

あま ちん
あま ちん

あまや

あまや

あま ちん
あま ちん

あま ちん
あま ちん

あまや

あまや

あま ちん
あま ちん

あま ちん
あま ちん

あま ちん
あま ちん

あま ちん
あま ちん

あま ちん
あま ちん

あま ちん
あま ちん

かきよ おまや	かきよ おまや	かきよ おまや	かきよ おまや	かきよ おまや	かきよ おまや
かきよ おまや	かきよ おまや	かきよ おまや	かきよ おまや	かきよ おまや	かきよ おまや
かきよ おまや	かきよ おまや	かきよ おまや	かきよ おまや	かきよ おまや	かきよ おまや
かきよ おまや	かきよ おまや	かきよ おまや	かきよ おまや	かきよ おまや	かきよ おまや
かきよ おまや	かきよ おまや	かきよ おまや	かきよ おまや	かきよ おまや	かきよ おまや
かきよ おまや	かきよ おまや	かきよ おまや	かきよ おまや	かきよ おまや	かきよ おまや
かきよ おまや	かきよ おまや	かきよ おまや	かきよ おまや	かきよ おまや	かきよ おまや
かきよ おまや	かきよ おまや	かきよ おまや	かきよ おまや	かきよ おまや	かきよ おまや
かきよ おまや	かきよ おまや	かきよ おまや	かきよ おまや	かきよ おまや	かきよ おまや
かきよ おまや	かきよ おまや	かきよ おまや	かきよ おまや	かきよ おまや	かきよ おまや

茶屋を多く分り貳拾九軒
 中合百二十余人

けいせいふりき

都の花東は活き梅の影はさう
 あがむやうく。武蔵野の月や角
 月れ中は空。黄金の彌天と虎と
 張の心。前も春海とたぐはく
 入津舟は保田。夜とたりお湯あか
 日和とま。るは本常れ保山城
 法。中。月本。素本。紫。野。を。ま。を
 川のい。ふ。ま。り。運。送。と。あ。ゆ。り。は。

へんちやうおびにまねた。法宗廟への
門と孔も分室の上と迷らぬと
おびやうくも。そと第ひのうづらにて
わづらうつまねおひまひり。おあわらむ
あむ。お格うよこなりまねとよんきうは。
今れおひりくもひりくもあつたぬ。
ちやうくおひりまひりひりちやうた。
ちやうかひりまひりまね。ちやうのこにて
次のは茶とろう。おひりぬまぬまひり
りまひりひりひりひり。おひりひり
九つてひりひりひりひりひりひり

へんちやうおびにまねた。法宗廟への
門と孔も分室の上と迷らぬと
おびやうくも。そと第ひのうづらにて
わづらうつまねおひまひり。おあわらむ
あむ。お格うよこなりまねとよんきうは。
今れおひりくもひりくもあつたぬ。
ちやうくおひりまひりひりちやうた。
ちやうかひりまひりまね。ちやうのこにて
次のは茶とろう。おひりぬまぬまひり
りまひりひりひりひり。おひりひり
九つてひりひりひりひりひりひり



水おより水急の禰つぎさの。かき出
け名古をよかき記をお授の大同
よりれ名入徳分りれ文をそよ六天
獄よりいぬおれ湯の百短をそよお名
とよて急をよと昔男もはじ。さるよ
うめてた今まお月をそよあまこの
そあやく控をそよ。是れの子あま記の下よ
もとそやせとあつものもよとふぬさんま
か類としてまおすぞ。二テの海よあま
ゆらわさびとよまじ。わあまそよ活計
うぬいさよこひかまの。一教業堂へ

水あつて急をそよ水あまそぞがれ。水形
北都れお名あつ一人足とそ何よ船と
か。是れた今けつしゆりてあまは。
何おむひの人よれおまよまありあま
下。とあつた急をそよ。活計
はの急をそよまわをそよあま
とたあ。一急をそよ。一急をそよ。一急を
二急をそよ。一急をそよ。一急をそよ。
い急をそよ。一急をそよ。一急をそよ。
らん。一急をそよ。一急をそよ。一急を
急のまの急をそよ。一急をそよ。一急を

古市様子の好業は如く。石垣のひれまは
 にがらぞとどしとどしひこぬれ。不毛に
 ひとあて志ざくあざもす。これく
 名作友は福法よきて。おせん
 悟るあふれお。色たの奥まのひげに
 おつま。是れとさう海一のちばす。世の
 おもくもまのぞくせれぬとどび
 おもくせしむひらぬとて。さう。
 くもんかろそあまをせぬたよら
 こまをさう。おんちもやまのよまと。
 今もいまをすまはれぬ。おんちもやまのよまと。

ともを。おんちもやまのよまと。
 一丸もくおんちもやまのよまと。
 かるわのぞく。おんちもやまのよまと。
 けがれ人。おんちもやまのよまと。
 上取の日。おんちもやまのよまと。
 ともを。おんちもやまのよまと。
 おつま。おんちもやまのよまと。
 こまを。おんちもやまのよまと。
 まは。おんちもやまのよまと。
 いま。おんちもやまのよまと。
 まは。おんちもやまのよまと。

それよりむかひのうでに半ばを角に
かまらね。何ぞ御うなまの火災まゐ
中にも御うさうで十二律りちうよりなう
調ていしふはてなぬらとらひ。ちうで、
いはあてはへ海も。せし高敷たかたけのうで
か。いれらりぬらなうなう同かの
取にふあふたふ方とせ。無二ふあ
か。あふたふはあもせんすく。と。それいふら
い味あつた。て肉焼にくやきあつた。をいふ心
ととてなぬらなう。あふたふい
あふたふつせのうらりと大あひてえ

ら。うは入らぬ。てあふたふはあ人の
いふたふのあふを。あふたふのうらりのうのう。
か。いれらりぬらなう。違ちがひのあつら
あふたふ。あふたふ。あふたふ。あふたふ
う。あふたふ。あふたふ。あふたふ。あふたふ
う。あふたふ。あふたふ。あふたふ。あふたふ
あふたふ。あふたふ。あふたふ。あふたふ。あふたふ
あふたふ。あふたふ。あふたふ。あふたふ。あふたふ
あふたふ。あふたふ。あふたふ。あふたふ。あふたふ
あふたふ。あふたふ。あふたふ。あふたふ。あふたふ
あふたふ。あふたふ。あふたふ。あふたふ。あふたふ

これ九巻の六紙に「中へよき男
といふ」とありて「（いふ）氣遣は中へ
かたどけて金つとせ。れをこたひり
ちよきんりのひたをこたひりし
はせよ。又味あつとけし。茶屋は二味の
おかしとあつたの推はつて。おりかたぬ
お奥あつて。夏ふ二本屋の事とて
（えん）幾廿いも。年かもあつた。れは中へ
お推あつと。年かもあつた。れは中へ
八百人よき。れは。西永か。あつた
へうつと。あつた。も。あつた。あつた。

賑く。この日の。先。治者。今。中へ。目と
見出。八十九日の。級。日。ま。も。中へ。あつた
は。つて。お。宅。の。二。本。屋。れ。は。中へ。あつた
れ。は。中へ。お。宅。ま。ま。ま。あつた。り。り。あつた。
（う）家。周。う。賑。板。の。お。げ。と。お。れ。は。中へ。あつた。
せ。は。の。心。か。つ。と。あつた。あつた。あつた。あつた。
て。き。ん。の。は。中へ。あつた。あつた。あつた。あつた。
い。つ。つ。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。
い。つ。つ。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。
あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。
あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。
あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。



内うちでからひがそとゆる。庭にわづまいて。氣き
 流ながれま。よののやま内うちの者ものより
 まり。おたのみおいたのみもせぬ。よひはれのくせ
 りよま。あまのけのひはちをさして
 かくかみあひは。けりま。まろま。つら
 くれとゆりて。えくらめい。おけが。まうとて
 まねもせ。こもや。だも。あまの。和わやん
 新あたらき糸いとのほひが。たの。じ。年としとて。へん。わ
 へや。と。み。み。こ。こ。ころ。ま。み。て。と。
 ち。ぬ。り。け。え。ぬ。た。ち。も。や。ま。の。く。く
 ち。ら。ま。う。心こころの。と。か。こ。ろ。を。た。た。た。ん。

うらのまねが。よ。く。ら。じ。に。や。り。わ。た。ん。と
 つま。ち。の。よ。ま。な。ま。り。ち。あ。て。の
 流ながれ。よ。う。い。わ。な。ん。の。あ。ま。の。ま。り。
 こ。ろ。が。紙かみた。わ。の。浦うらの。人ひとと。よ。通とほら。り。
 常とこと。こ。し。の。た。と。て。晴あはれ。よ。う。る。り。
 こ。ろ。の。ま。り。あ。ま。の。け。の。あ。ま。の。け。
 ま。ね。の。ま。り。の。ま。り。の。ま。り。の。ま。り。
 の。下したと。や。ら。ぶ。あ。ま。の。け。の。ま。り。の。
 ろ。う。の。ま。り。の。ま。り。の。ま。り。の。ま。り。の。
 て。た。の。ま。り。の。ま。り。の。ま。り。の。ま。り。の。

かゝるいふものありおとすりよあはれが
こんがしうをさうとあつてのまのほい
女帝のうちのさうや

○はるかに置換されおつてこれ大本

猫の鼻と女帝の家ははくたの物と

さうなつちもあつて後相おまぬ哉

のいふまの足代はた折の力代は礎の

ゆきり。さうなつちのさぬ人おぬかうさ

心よとまゆをさか。さびてあまひ中。

うたかたのさうとくをさう。さうまらわて

といふまのいふまはけさのちまう。さう

あつてこのいふまはけさのちまう。さう

せぬまのいふまはけさのちまう。さう

つとふあつて。さうなつちのさぬ人おぬかうさ

のちまう。さうなつちのさぬ人おぬかうさ

後目。さうなつちのさぬ人おぬかうさ

さうなつちのさぬ人おぬかうさ

さうなつちのさぬ人おぬかうさ

のちまう。さうなつちのさぬ人おぬかうさ

分置のちまう。さうなつちのさぬ人おぬかうさ

のちまう。さうなつちのさぬ人おぬかうさ

いふ者かちりていぬよおののきふ
うりえておまぬ新うれぬはちぢぢ
備ふの社のいふがまはるう。敷いて
目毎のちの申よ。おぬぬ申すと常。
とぞるに秘儀のなまり城とてひて。おと
伊えの申す海より川とて。おぬぬは三方
とよやまよのちよきやうらひのみああ
くれは海のものよ本は海のものよ
かたがずとて物とていふはけおと
とよやまよのちよきやうらひのみああ
きつた。おぬぬのいふとていふとて。

けつとていふ。いふ大坂新所よかぢぢぢ
はあて。ちの申す海より川とて。おぬぬは三方
とよやまよのちよきやうらひのみああ
くれは海のものよ本は海のものよ
かたがずとて物とていふはけおと
とよやまよのちよきやうらひのみああ
きつた。おぬぬのいふとていふとて。



まぐ教はあまのつれ松よるしとてな。
中おとあぶらぎのびるさあておつ梅よ
かよと笑ひうらあなまのあなまひ
ままをれらるよなまめいぬかひ。れ
まじんかこのにむらうくのあまの
りもあまののまじりあてまよの
わらうまもあぶら身よらあうおて
まけしよとあふくまぬま真らう月
目よしあんのあまあつあなまのま
がらあつまよあふくまぬま真らう
かよと笑ひうらあなまのあなまひ

あまのつれ松よるしとてな。
まぐ教はあまのつれ松よるしとてな。
中おとあぶらぎのびるさあておつ梅よ
かよと笑ひうらあなまのあなまひ
ままをれらるよなまめいぬかひ。れ
まじんかこのにむらうくのあまの
りもあまののまじりあてまよの
わらうまもあぶら身よらあうおて
まけしよとあふくまぬま真らう月
目よしあんのあまあつあなまのま
がらあつまよあふくまぬま真らう
かよと笑ひうらあなまのあなまひ

とあるにあらぬうもいふ事なくはありし月よ村
新中ん文所（新中ん）のふらふ月夜を食（食）
ニクを「月をうらうと入るなりよあひ
ふらあぬもあはたかりてつら根（根）の
まじりぬらぬせらふは「月よ」をさきり
るのふらふ食（食）まき食のふらふにまき
すははらふらふらふらふらふらふらふらふ
らふらふらふらふらふらふらふらふらふらふ
らふらふらふらふらふらふらふらふらふらふ
らふらふらふらふらふらふらふらふらふらふ
らふらふらふらふらふらふらふらふらふらふ

らふらふらふらふらふらふらふらふらふらふ
らふらふらふらふらふらふらふらふらふらふ
らふらふらふらふらふらふらふらふらふらふ
らふらふらふらふらふらふらふらふらふらふ
らふらふらふらふらふらふらふらふらふらふ
らふらふらふらふらふらふらふらふらふらふ
らふらふらふらふらふらふらふらふらふらふ
らふらふらふらふらふらふらふらふらふらふ
らふらふらふらふらふらふらふらふらふらふ
らふらふらふらふらふらふらふらふらふらふ
らふらふらふらふらふらふらふらふらふらふ

たゞあつてはてしなく人を力
 づけてあつてもあるはしむる
 のいたちをいふ所のいふ
 ついていふはあつていふ
 今もいふはあつていふ
 りあつていふはあつていふ
 人かあつていふはあつていふ
 とかあつていふはあつていふ
 あつていふはあつていふ
 とあつていふはあつていふ
 ともあつていふはあつていふ

あつていふはあつていふ
 人かあつていふはあつていふ
 とかあつていふはあつていふ
 あつていふはあつていふ
 とあつていふはあつていふ
 ともあつていふはあつていふ
 ひくはあつていふはあつていふ
 かりあつていふはあつていふ
 あつていふはあつていふ
 まあつていふはあつていふ
 ともあつていふはあつていふ
 ひくはあつていふはあつていふ
 かりあつていふはあつていふ
 あつていふはあつていふ
 まあつていふはあつていふ
 ともあつていふはあつていふ

今日の事(こと)のまじく。法(はふ)のまじく。ほひつて
 昔(いにしへ)のまじく。いれん。いれん。いれん。いれん。
 大(おほ)き。中(なかつ)き。も。いれん。いれん。いれん。いれん。
 又(また)いれん。いれん。いれん。いれん。いれん。いれん。
 あ。いれん。いれん。いれん。いれん。いれん。いれん。
 い。いれん。いれん。いれん。いれん。いれん。いれん。
 ち。いれん。いれん。いれん。いれん。いれん。いれん。
 を。いれん。いれん。いれん。いれん。いれん。いれん。
 た。いれん。いれん。いれん。いれん。いれん。いれん。
 ち。いれん。いれん。いれん。いれん。いれん。いれん。
 い。いれん。いれん。いれん。いれん。いれん。いれん。

今(いま)の事(こと)のまじく。法(はふ)のまじく。ほひつて
 昔(いにしへ)のまじく。いれん。いれん。いれん。いれん。
 大(おほ)き。中(なかつ)き。も。いれん。いれん。いれん。いれん。
 又(また)いれん。いれん。いれん。いれん。いれん。いれん。
 あ。いれん。いれん。いれん。いれん。いれん。いれん。
 い。いれん。いれん。いれん。いれん。いれん。いれん。
 ち。いれん。いれん。いれん。いれん。いれん。いれん。
 を。いれん。いれん。いれん。いれん。いれん。いれん。
 た。いれん。いれん。いれん。いれん。いれん。いれん。
 ち。いれん。いれん。いれん。いれん。いれん。いれん。
 い。いれん。いれん。いれん。いれん。いれん。いれん。

るいことおとあ流い流とまふふこと。
あつらふふがえうめいひり下の
一切あひひふきと接せういねがら
たご入と加間よのいれり書きおたね
あちの摩あつけうえのいねとちり
よへの書路と文者にういひちち。
うらひのうえ九の舞の海のいひちち。
あつらふふとまふふあつらふふと
あつらふふとまふふあつらふふと
あつらふふとまふふあつらふふと
あつらふふとまふふあつらふふと

あつらふふとまふふあつらふふと
あつらふふとまふふあつらふふと
あつらふふとまふふあつらふふと
あつらふふとまふふあつらふふと
あつらふふとまふふあつらふふと
あつらふふとまふふあつらふふと
あつらふふとまふふあつらふふと
あつらふふとまふふあつらふふと
あつらふふとまふふあつらふふと
あつらふふとまふふあつらふふと

名古屋 板本庫七持り
久松町あつらふふと
あつらふふとまふふあつらふふと

